

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田“やまほいくの里山”プロジェクト-地域資源を保育に繋げよう-
事業主体 (連絡先)	学校法人北野学園 上田女子短期大学 上田市下之郷乙 620
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	850,830円 (うち支援金: 680,000円)

事業内容

I. 講義・ワークショップ・裏山における体験活動を実施(会場:上田女子短期大学)

①7/7「地域再見～民話から地域を再見し、保育と文化を紡ぎ出す～」23名
 ②9/15「散歩の魅力を再考しよう～大人も子どもも散歩を通して色々な発見をしてみよう～」57名
 ③12/8「地域資源を活かして遊ぼう～地形や植物、自然物を活かして遊ぼう～」18名
 ④1/26「地域資源の保育への活用実践報告」44名

II. 長野県内の自然保育実践施設見学を実施

①11/12「山のあそび舎 はらぺこ」(伊那市) 12名
 ②12/16「響育の山里 くじら雲」(安曇野市) 8名



【散歩の魅力についてのワークショップ】

【目標・ねらい】

- ①様々な視点から地域を捉え、身近な環境や自然の魅力を再考する。
- ②地域に対する愛着を抱けるような自然保育のあり方を考える。
- ③多様なネットワークの構築
- ④学生自身が地域の担い手としての実感を

事業効果

- ①民話や散歩、猫山の散歩等を通して、身近な地域資源を見つめなおす機会になり、子どもたちがそれらの地域資源に触れていくことの価値を再認識した。
- ②学外でのワークショップを通して、身近にあるありふれた地域資源の魅力を再発見すると同時に、それらを保育に取り入れていくための課題も浮き彫りになった。
- ③文化的、実践的な専門家や、地域で子育てをする保護者だけでなく、シニアの方や林業士等一見保育とは無縁の立場の方等との多様なネットワークの構築により、今後の「自然保育」のあり方を考えていく視野が広がった。
- ④各研修会への学生参加は、学生が講師や参加者と横並びの関係で実践や実践報告を通して、自然保育を理解する機会になっている。
- ⑤一般の方にも公募をかけた視察を行ったことにより、県外の都市部から移住した元保育士の方が視察に同行した。個人的なSNSへの発信など短大発信以外の波及効果があった。

※自己評価【B】

【理由】

昨年以上の参加者数で、県外の森の幼稚園や保育以外の職種の方も参加されており、様々な立場の方との繋がりを産むという新たな役割も見出すことができたこと、また、そうした他業種の方々の知見も得ながら自然保育を考える必要性など新たな課題も認識することができた。信大生との連携や学生の主体的な学びについては今後さらに工夫していきたい。

今後の取り組み

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

今年度の研修会では、自然保育を根底で支える地域との関係、地域資源の活用のあり方など自然保育を捉える視野を広げることができた。保育の転換期と言われている今の時代に必要な自然保育のあり方を見極めつつ、これまでの実践やネットワークをもとに自然保育の実践を言語化していく必要がある。また、子どもだけでなく保育者や学生にとっても魅力的な自然保育を追究していくことで保育職の魅力の見直しにも繋げていきたい。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	農民美術・児童自由画100周年記念事業
事業主体 (連絡先)	農民美術・児童自由画100周年記念事業実行委員会 上田市天神3-15-15
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	12,166,938 円 (うち支援金：4,363,000 円)

事業内容

上田の伝統工芸である農民美術、及び、現在の図工美術教育の源流である自由画教育の100周年を振り返る展覧会、各種講座・講演会、ウォーキングイベント等を開催。

- ・記念展覧会：11/30～2/24
- ・講演会：12/21
- ・パネルディスカッション：1/12
- ・クレパス画講座：1/11
- ・オリジナルクレヨンをつくろう 12/8・1/13



事業効果

- ① 支援金を活用して、全国に十分PRできる記念展を開催し、期間中全国から4,395人が来場した。
- ② シンポジウム・パネルディスカッション、講演会、中学校・大学での特別授業等により、改めて農民美術と自由画の意義を普及することができた。
また、商店街と協力して、農民美術の展示を行い、街なかでの事業PRに努めた結果、来訪者の上田での街なか回遊数の増加と認知度のアップにつながった。
- ③ 全国各地から教育関係者や農民美術に関心を寄せる関係者が来場し、改めて農民美術と自由画の活動と理念を現在に生かそうとする機運が芽生えてきている。

【目標・ねらい】

- (1) 伝統工芸である農民美術の将来への継承を図る。
- (2) 創造性を重視する自由画教育の意義を再確認する。
- (3) 住民学習推進・地域価値の創造

今後の取り組み

100年を経過した農民美術を国の伝統的工芸品に指定を申請するための検討を開始する。農民美術の担い手の育成を進めるため、引き続き市民の向けの入門講座やより深く学ぶための講座を開催する。神川小学校に保管されている600枚以上の児童画を整理し、今後の展示公開により自由画教育の意義を伝えていく。100年に及ぶ農民美術と自由画教育の調査・研究を行い、学校教育での鑑賞授業や、生涯学習での講演会に成果を生かしていく。

※自己評価【A】

- 【理由】
- ・来場者は当初予定(3,900人)より12%増加した。
 - ・各種体験講座の参加者は当初予定(60人)の2.5倍となった。
 - ・NHK特別番組の放映により全国的に本事業が取り上げた2つの活動の社会的価値に対する認識が広がったこと。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田街中演劇祭 2019ー演劇による地域振興と演劇文化担い手育成事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人シアター&アーツうえだ 上田市中心 2丁目 11-20
事業区分	教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,336,163円 (うち支援金: 4,578,000円)

事業内容

上田市の中心市街地には芸術文化に触れる機会が少なく、演劇については関わる人口も少ない。横のつながりも薄く、担い手も育てていない現状を変えようと、中心市街地の商店街に面した会場や、空き店舗など、複数の会場で9月21日～12月22日まで「上田街中演劇祭2019」を開催した。

【優れた舞台芸術の紹介 5団体】

- ① 9月21日(土) @別所神社 神楽殿
劇団シェイクスピアアンサンブル『マクベス』(演劇)【提携公演】
- ② 9月28日(土)～29日(日) @犀の角
トランクシアター・プロジェクト2019『月夜のファウスト』(演劇)【提携公演】
- ③ 11月23日(土)～24日(日) @犀の角
山田せつ子『そしてなるほど ここにいる』(ダンス)
※市民参加作品
- ④ 12月7日(土)～8日(日) @犀の角
Shelf『AN AND AUS|つく、きえる』
12月5日(木) 関連ワークショップ開催
- ⑤ 12月14日(土)～15日(日) @犀の角
糸あやつり人形劇団みのむし『怪談・幽女執念』『かさじぞう』
12月14日(土) 関連ワークショップ開催

【街で創る！アーティストインレジデンス in 海野町】

- ① 11月7日(木)～10日(日) @犀の角
72時間トークイベント vol.2 『かえるー帰・変・孵・返・蛙ー』
- ② 12月20日(金)～22日(日) @犀の角
飯田茂実『王女と舞姫、火の鳥に乗る！』
※市民参加作品
- ③ 12月7日(土)～8日(日) @竹の湯
岸井大輔『ことなることとこととならぬこと』
12月2日(月)～6日(金) (5回) 同講演関連企画ワークショップ

※活動写真



『そしてなるほど ここにいる』
公演写真

【目標・ねらい】

- ① 演劇文化及び、中心市街地振興
- ② 劇場文化担い手育成

※自己評価【 B 】

- ・観客が昨年と比べて2%増加したが、目標には届かなかった。
- ・中心商店街における演劇の公演数が21公演から24公演と増え、中心商店街で文化芸術に触れる機会が増加した。
- ・劇場を訪れた観客が街中を回遊することで中心商店街に賑わいをもたらただけでなく、アフタートークなどで観客とアーティストが対話をし、地域間交流や、観客同志の会話により世代間交流が促進された。
- ・担い手育成の面では、ワークショップの機会を多く設け、市民が参加できる仕組みを作り、98名が参加した。

【地域劇団応援 3団体】

- ① 11月23日(土)～24日(日) @竹の湯
わかち座『静かな夜と私』
- ② 12月14日(土)～15日(日) @竹の湯
はらぺこ満月『』
- ③ 12月21日(土)～22日(日) @竹の湯
空想≠カニバル『天邪鬼』

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 上田地域で鑑賞する機会の少ない優れた小劇場演劇作品を上演し、地域住民に芸術作品の鑑賞機会を提供することができた。
演劇祭の観客数の増加 対H30 比 2%増
(R元：1221名 ← H30：1195名 ← H29：870名)
- ② 空き店舗を演劇の公演会場として有効活用しつつ、中心商店街への集客を促すとともに、空き店舗の多い地域課題に目を向けてもらうことができた。
- ③ 上田地区で地道に活動している地域劇団の公演活動を広報面、会場費などの面で支援し、招聘劇団との交流の機会を作ることができ、地域間交流が促進された。
- ④ 市民参加作品(12名参加)、関連ワークショップ(98名参加)、演劇祭ボランティアスタッフ(10名参加)など市民が参加できる仕組みをつくり、演劇初心者積極的に取り込んだ。それにより芸術文化に親しみ、今後の芸術文化や演劇に関わり担い手が増えていく可能性が生まれた。また、大学生以下、小学生以下の観客(計94名参加)により、若い世代の演劇やそれに関わる関連企画に参加する機会を多く設けることができた。
- ⑤ 担い手育成の面では、地元大学の演劇部の学生が公演の準備など手伝いに入り、プロの制作・技術スタッフが活動する現場で、公演に携わる機会を作ることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・演劇祭だからこそ可能となる、大都市圏で活動するアーティストと地域で活動するアーティストの交流、アーティストと観客の交流はこれまで以上に促進していきたい。これまでも上田街中演劇祭を通じた出会いが発展し、別の作品創作につながるなど、劇団が生まれるきっかけとなっている。
- ・優れた舞台作品の紹介。今後も継続的に良質な舞台作品の紹介を通じて、今世界で起きている多様な問題を演劇を通して考える機会を地域社会に提供する。世界を観る窓としての演劇の可能性を活かしていく。
- ・演劇を通じた居場所作り。ワークショップや市民参加劇をすることで、演劇がさまざまな市民にとっての居場所となる機会を提供する。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子どもアトリエを活用した創造活動プログラム
事業主体 (連絡先)	子どもアトリエ運営委員会 (事務局：上田市立美術館) 0268-27-2300
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,181,401円 (うち支援金：1,530,000円)

事業内容

上田市立美術館に併設の子どもアトリエでは、アートによる体験を通して「つくるって楽しい」「表現するっておもしろい」を感じながら、子どもたちの自由な発想、新たな創作意欲を引き出すきっかけづくりとなるプログラムを行っています。

美術を難しく考えず、体全体を使って素材に触れて楽しむプログラムや通年・連続した講座で経験を重ね、創造力や表現力を育むプログラム、そして幼稚園・保育園や小学校に来館いただき、普段の園や学校生活では行うことが難しい創作活動を美術館で体験するプログラムなどを実施しながら、子どもたちの考える力や豊かな感性を育みます。



【プログラムの様子】
「子どもは天才講座」
アートな七夕飾りをつくろう

【目標・ねらい】

- ①アート体験の場の創出・提供
- ②プログラム体験者の定着
- ③子どもアトリエプログラムのPR
- ④内容の精査、充実、継続力

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・今年度も様々なプログラムを実施。全95回の事業を通じ、子どもたちにアート体験の場の創出、提供ができた。
- ・今後の持続性を見据え事業回数と内容の精査、充実を行い、広報制作物への注力と事業内容の選択を実施。その結果、子どもの参加者延べ2,144名と、昨年度の2,416名より減少こそしたが、確実に参加者が2,000名を超えるようになった。特に、団体向けプログラムは市内25の保育園・幼稚園と2つの小学校で実施。恒常的に体験を希望する園や学校が出てきており、定着がうかがえる。
- ・美術館が子どもたちに居場所と感じてもらえるよう講座の実施や子どもアトリエサポーターを立ち上げ。講座ではリピーター率20%となり、またサポーターも54名を登録した。(ただし、体制の確立に時間を要し実施は1回2名。課題を精査したい。)

※自己評価【 A 】

【理由】
これまでの積み重ねを踏まえ、内容の精査と充実努力に努めたことで、参加者の定着につなげることができ、創造・体験の場を提供できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の事業で、当会のプログラムが市内外の子どもの意識の中に定着し、美術館が子どもたちの生活の中の一部として感じてもらえている手ごたえを感じた。しかしながら、講座によっては抽選などで体験できない子どもも増えている。意欲がそがれてしまうことのないよう、子どもアトリエサポーターの増員をはじめ、多角的な角度から子どもたちがアートや芸術を楽しみ、自分で考えて自分で創作し表現することの面白さに気づき、豊かな創造力を育むきっかけを創出していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなの居場所作り事業
事業主体	上田ボランティア連絡協議会 (0268-25-2629)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,176,299 円 (うち支援金: 934,000 円)

事業内容

「居場所を拠点として誰でも、いつまでも安心して生活できる地域を創造」を運営理念とし「誰もが来たいときに来て、自らも主体者として参加しながら支えあえる場所づくりと地域住民で新たな支えあいの仕組みを構築」をコンセプトとして以下の事業を実施した。

1 「みんなの居場所」事業

(1) 子どもを中心とした居場所

- ・地域交流こどもカフェとして大人も一緒に学び、遊び、食事とおして子どもと大人の交流の場とした。休日に7回開催
- ・放課後こどもカフェ 平日15時～17時
学習支援、遊び、食事などで放課後の居場所を行い、食事は近隣の一人暮らしの方もボランティアとして参加し交流した
7月より 月2回 水曜日開催 計13回開催

(2) 子育て中の親子から、高齢者、障がい者等どなたでも地域住民の交流の居場所

- ・小物作り講座、介護予防講座、おしゃべり、お茶のみなど
- ・開催回数延べ103回 (平日週2回程度)

2 不登校等の親子の居場所の開催

- 親のための情報交換、おしゃべり会 5回 10時～15時
- 子どもと大人の居場所「だらっと」平日11回 10時～17時



【大人と子どもの交流】

事業効果

1 「みんなの居場所」事業

(1) 子どもを中心とした居場所の開催

- 延べ子ども参加人数76名
- 放課後こどもカフェ 子ども40名 大人54名 13回開催
- 大人と子どもの交流カフェ子ども36名 大人98名7回開催
- ・子ども同士の繋がりと学校以外での自由な活動ができる事で子どもの安心を支えている
- ・高齢者とのつながりができ互いに良い関係づくりができている

- ・放課後こどもたちが地域で集える場所がない現状の中、こどもにとって自由にふるまえて楽しく過ごせる場所を大人が提供することは地域で育てるということを実践していることになる。

(2) 子育て中の親子から、高齢者、障がい者等どなたでも地域住民の交流の居場所

- ・週2回以上開催し、述べ352名が参加した
- ・講座参加者同士での繋がりができ継続参加者が居場所の担い手にもなっている

2 不登校の子どもと親の居場所作り

おしゃべり会や平日の子どもの居場所「だらっと」では子ども達の安心した姿や親同士の共感の場となった。述べ参加者数178名

【目標・ねらい】

- ① 地域支えあいの仕組みづくり
- ② 子どもの安心を支える
- ③ 地域の交流拠点
- ④ 地域住民の担い手の発掘

※自己評価【 B 】

【理由】支えあいの仕組みづくりの目的のもとに居場所の開催を行うことができ、地域の子どもたちに安心の居場所となった。地域への周知が進み地域の利用者や団体が増えた、不登校の子供の居場所は参加者が多く大きなニーズを感じた。

今後の取り組み

事業目的を地域住民に周知するための講演会や、バザーなど行い、自治会やボランティア団体や企業などにチラシ等を通じて知らせ、参加者を増やす。不登校児童など学校で安心して過ごせない子どもや悩みを抱える家族への支援など行政や、教育委員会とも連携して行う。様々な活動の場としての利用を、地域を超えて呼びかけ周知していく。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	一場所多役の子どもの居場所事業		
事業主体 (連絡先)	NPO 法人子育て応援団ぱれっと 090-8329-3494		
事業区分	安心・安全な地域づくりに関する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	441,239	円 (うち支援金 :	352,000 円)

事業内容

居場所「こどもレストランきらっと」を開催し(毎月第1土曜日 10:15~15:00)、そこに関わる子ども・若者・高齢者・障がい者のつながりを一層深め、参加者・スタッフ全員の満足度を高めるために内容の充実を図った。

①遊びと学習支援の充実 遊びの中心であるゲーム、全体遊びの中でも特に人気のあるゲーム(昔遊びゲーム・TVゲームなど)の内容を検討し充実させた。全体遊びには遊びコーディネーターを依頼し、孤立する子どもがいない環境作り、全体遊びに対する驚きと感動を与えたいと考えた。

学習にはアイパッドのアプリを使い、楽しめる学習を目指した。

②スタッフの育成 ボランティアスタッフ(学生ボラ、地域ボラ)が「遊びのプロ」を通して子どもとの関わりを学んだ。

事業効果

①「子どものために」をキーワードに、子ども、若者、高齢者、障がい者がそれぞれの心地良いと感じる位置で関わり合いを持つてつながった。楽しさ、遣り甲斐などを感じて参加者が増加した。

子ども参加者 376人、大人参加者 635人、支援者の増加率 106.7%

②共生の居場所で家庭支援の仕組みが可能となった。子どもレストランでつながることを通し次のステップへ。

支援家庭数

- 生活保護家庭：1家庭
- 不登校児の家庭：3家庭
- 孤立しがちな家庭：1家庭

③遊びを通して「集団苦手」を克服。集団遊び未経験の子どもに「遊びのプロ」より非日常感動体験を提供。つながり度アップへ。

今後の取り組み

・今後、子どもレストランの取り組みをさらに周知し、多くの学校、地域住民、行政、企業にも理解を得て、支援を求めていく。取り組みに参加してもらう。

・子どもレストランの内容の中に、発達障害、不登校、学習困難を持つ子どもでも、参加しながら苦手を軽減していける取り組みを組み込んでいく。教育委員会とも連携して、学校に苦手を感じている子どもの居場所として評価してもらえるよう働きかけて行く。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【 食事のようす 】

【目標・ねらい】

- ①大人から子どもまでがつながる。
- ②多様な状況の家庭支援。
- ③子どもの遊びの幅を広げる。友達同士で、つながることの楽しさを感じてもらう。

※自己評価 【 A 】

【理由】

居場所を通じてつながりのかたちの実現が更に広がった。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	アクティブウエルネスツーリズム事業
事業主体 (連絡先)	ウエルネスツーリズム研究会 上田市本郷 109-1 0268-38-3802
事業区分	特色のある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,396,018 円 (うち支援金 : 1,028,000 円)

事業内容

・地域の自然、歴史、文化資産を有効活用したウエルネスツアープログラム(アクティブウエルネスツーリズム)の実施(観光・健康ツアーイベントの開催)に向けた研究、提案活動により、地域の活性化、振興に寄与する。

体験型ツーリズムが時代のニーズとして注目されるなか、テーマをもとに体系化し、各地域団体と協働し、これまでなかったツアープログラムを提案した。

事業内容

- 1) ウエルネスツーリズム研究会・研修会の開催
- 2) PR、プロモーション活動
- 3) トライアルツアーの実施

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・研究会・研修会の実施 (7回開催) 51名参加
各回講師を招いて地域の観光資産、地元食の研修を行った
- ・アクティブウエルネスツアー
(トライアルツアーの実施)

9月14日・15日 20名参加(43名募集)46%達成
2月9日・10日 8名参加(20名募集)40%達成

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回、明確になった課題を解決し、目的である地域の多面的な資産を生かすツーリズム事業を推進していきたい。

今回の成果、経験を活かし、アクティブウエルネスツーリズム事業を具体化していく。

(時期的には夏以降に各ツアープログラムを実施していく。)

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動)



トライアルツアー

千曲川リバーツーリング

【目標・ねらい】

- ① 地域の特色を生かしたツーリズムコンテンツの研究
- ② それを体験できる実体験ツアーの実施と課題解決

※自己評価【C】

【理由】

地域の各専門家と協働し、新しいツアーの提案はできたが、事業化に向けて乗り越えるべき課題が明確となった。一回の事業として参加率では予定を下回った。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	元気な老後のための市民公開講座開催事業
事業主体 (連絡先)	学校法人成田会 上田市中央2-13-27
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,024,205円 (うち支援金: 764,000円)

事業内容

1 市民公開講座の開催

日時: 令和元年7月13日(土)

場所: 上田市中央2-13-27 長野医療衛生専門学校
内容

- ①高齢者の健康増進等に関する講演
講師 諏訪中央病院名誉院長 鎌田實氏
演題「生きているってすばらしい～運動・口腔ケア・食・絆が大切～」
- ②口腔ケア等に関するミニ講座
- ③相談ブースの開設



【講演の様子】

2 口腔フレイル予防に関する啓発パンフレットの配布

【目標・ねらい】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1 市民公開講座

- ① 講演参加者 地域住民 150名
- ② ミニ講座参加者 地域住民 70名
- ③ 相談ブース参加者

歯科衛生士学科ブース	相談者 28名	学生 41名
言語聴覚士学科ブース	相談者 33名	学生 59名
音楽療法士学科ブース	参加者 49名	学生 13名

- ①フレイル予防のノウハウの提供
- ②参加者の個別相談へのアドバイス
- ③学生の、学んだことの実践・体験
- ④住民との交流・共感

※自己評価 【 A 】

2 口腔フレイルに関する啓発パンフレット 東信地区に 27,000部を配布

【理由】
定員を上回る参加の希望があり、参加者を絞らなければならない状況であった。講演も盛況であり、相談ブースでも、参加者からこの取り組みに関する高評価が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度の第1回の市民講座を開催することにより

- ①本校の口腔ケアに関する専門的知識を提供することにより、住民の健康づくりに貢献できること
 - ②学生が、住民の悩みに直接接することで、学んでいることの有用性が認識できること
- が確認できたことから、令和2年度以降も引き続きこの事業を実施していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	元気な老後のための市民公開講座開催事業
事業主体 (連絡先)	学校法人成田会 上田市中央2-13-27
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,024,205円 (うち支援金: 764,000円)

事業内容

1 市民公開講座の開催

日時: 令和元年7月13日(土)

場所: 上田市中央2-13-27 長野医療衛生専門学校
内容

①高齢者の健康増進等に関する講演

講師 諏訪中央病院名誉院長 鎌田實氏

演題「生きているってすばらしい～運動・口腔ケア・食・絆が大切～」

②口腔ケア等に関するミニ講座

③相談ブースの開設



【講演の様子】

2 口腔フレイル予防に関する啓発パンフレットの配布

【目標・ねらい】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1 市民公開講座

① 講演参加者 地域住民 150名

② ミニ講座参加者 地域住民 70名

③ 相談ブース参加者

歯科衛生士学科ブース 相談者 28名 学生 41名

言語聴覚士学科ブース 相談者 33名 学生 59名

音楽療法士学科ブース 参加者 49名 学生 13名

- ①フレイル予防のノウハウの提供
- ②参加者の個別相談へのアドバイス
- ③学生の、学んだことの実践・体験
- ④住民との交流・共感

※自己評価 【 A 】

2 口腔フレイルに関する啓発パンフレット

東信地区に 27,000部を配布

【理由】

定員を上回る参加の希望があり、参加者を絞らなければならない状況であった。講演も盛況であり、相談ブースでも、参加者からこの取り組みに関する高評価が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度の第1回の市民講座を開催することにより

①本校の口腔ケアに関する専門的知識を提供することにより、住民の健康づくりに貢献できること

②学生が、住民の悩みに直接接することで、学んでいることの有用性が認識できること

が確認できたことから、令和2年度以降も引き続きこの事業を実施していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	重文常田館製糸場施設活用事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人絹の文化・蚕都常田館 (事務局 小駒はるみ)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	430,409 円 (うち支援金: 323,000 円)

事業内容

「重文常田館製糸場」公開の管理団体です。

- 上田歴史周遊拠点にふさわしい受入れ体制づくり
蚕糸文化の展示場整備(繭倉庫照明工事 3 か所 稼働型照明装置 5 基制作 展示化粧布・作品ケースなど)
- 蚕都上田体験型動態展示の実現とボランティア育成
親しみやすい蚕糸文化として繭クラフト作品展(ランプクラフトは常設)を開催するとともに繭クラフトと猫ランプの制作講習会を実施、ボランティアは繭クラフト体験を自主運営した。
- 製糸場案内「蚕都上田及び近代化産業遺産について」
製糸場の外国人向け案内に蚕糸文化をとりいれ A4×6 頁で紹介(英語解説付き/日本語兼用)



【歴史散策ツアー来訪】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 木造倉庫に光源 3 灯が並び、広い空間を奥行として感じられる。さらに展示物をスポットライト風に照らすことから建物と展示物双方をコントラストで演出できるようになった。また鉄筋倉庫は稼働式照明で明るさ十分。展示会場として充実した。
- 親しみやすい蚕糸文化は展示会入場者や講習会受講者ばかりでなく博物館関係者など展示の専門家にも広くアピールし外部展示施設との交流が生まれた。またイベントに合わせ育成ボランティアによる自主運営の体験会を開催できた。
- 蚕糸文化を中心に画像を多く掲載して一般にも親しみやすい蚕糸文化をアピールした。英語版でなく日英版としたことで外国人日本人を問わず利用できる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

製糸場が産業遺産として「学べき史跡」となってきました。小学生から中高大生、生涯学習団体、研究者まで様々な来館者が常田館を訪れます。引き続き一般公開を実施してゆく一方でさらに目標としたいのが「若い人たちへの伝承」と「親しみやすい蚕糸文化のアプローチ」、「ボランティアの育成継続」です。若い人たち向けには学校等を通じて郷土と蚕糸業についての出前授業を継続すること、さらに特に学びを目的としない方々にも繭クラフトなど親しみやすい蚕糸文化を発信し続けること、それが今後の積極的な理解協力者の活性化に繋がると考えています。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- 受入れ体制作り、来場者の誘導
- 「蚕都上田」体験型動態展示
- 「蚕都上田および近代化産業遺産について」周知活動

※自己評価 【A】

【理由】繭フラワーや猫などの親しみやすい蚕糸絹文化のアプローチが好評。展示会にも多数の来場者があった。博物館の引き合いで繭クラフトの講習会を外部開催できた。また館内外の様々な団体に対して繭作品や体験通じた蚕糸業蚕糸文化をアピールできた。さらに見学者向けパンフレットは日本人外国人ともに対応している。

令和年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田なないろ農産物ブランド化事業
事業主体 (連絡先)	上田地産地消推進会議 事務局：上田市農産物マーケティング推進室 (TEL21-0053)
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,393,340 円 (うち支援金：2,714,000 円)

事業内容

上田市の気候・風土により生産される多種多様で高品質な農産物を『信州上田なないろ農産物』と銘打ち、ブランド化の推進と地産地消の実現を図ることで、遊休荒廃地の解消や農業の担い手を増やすことに繋げる。

今年度は上田市産農畜産物を広く取り上げることを目的とし、(1) PR 冊子制作配布、(2) 高校生レストラン実施 (3) うえだみどり大根収穫祭開催の3つの取組みを、生産者や市内事業者、教育機関等と連携を図り実施した。



【高校生レストラン写真】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1 「信州上田なないろ農産物」PR冊子(3,000部)の制作及び配布

- ・PR冊子 3,000部制作、配布
- ・配布箇所 100箇所

2 「信州上田なないろ農産物」をメインテーマとした高校生レストランの実施

- ・実施回数 2回(目標3回)
- ・参加生徒 29名(目標3回計15名)
- ・一般来場者 70名(目標3回計90名)
- ・提供メニュー数 14メニュー
- ・使用産品(上田市産または製造) 36品

3 うえだみどり大根収穫祭の実施

- ・来場者 435名(目標500名)
- ・トートバッグ配布数 435枚(目標500枚)
※残数は先述の催しで配布。
- ・別所線利用者 20名(目標100名)

【目標・ねらい】

- ①上田市産農畜産物の認知拡大
- ②教育機関と連携した若い世代への地元産品に対する理解及びシビックプライドの醸成
- ③地域特有の農畜産物の活用による、地域農産物の認知拡大及び事業者連携の推進

※自己評価【A】

【理由】

効果目標に満たない事業もあったものの、ブランド化に一定の成果をおさめ、かつ継続的な事業実施が見込めるため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回制作した「PR 冊子」、「トートバッグ」、「テーブルクロス」は継続使用または自主財源での増刷等を行い、行政及び市内事業者等の物販や催事時等で継続した利活用を行う。また、「うえだみどり大根収穫祭」も生産者組合の財源での開催ができる目処がたったため、こちらも継続した実施と、当催事を活用した上田市産農産物のPRをはかっていく。

高校生等教育機関との事業においても、今後授業等において連携をはかり、上田市産農畜産物への理解の醸成をすすめる事業展開を行っていく。